

ベラルーシ共和国における医療支援活動について

NPO 法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

<医療支援プロジェクトの始まり>

チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、1997年よりベラルーシ共和国ブレスト州において、現地の医療関係者らと合同で甲状腺ガン検診プロジェクトに取り組んでいる。

チェルノブイリ原発事故直後から各国NGO等からの支援活動が盛んだったゴメリ州と比べ、同じ汚染州であるブレスト州では、当初被災者支援が遅れていた。そこでチェルノブイリ医療支援ネットワークでは、ブレスト州内で特に甲状腺ガンの発症率が高かったストーリン地区において検診プロジェクトを開始した。

1997年～2001年までの5年間で合同検診のスタイルを確立し、2002年より拠点をブレスト市に移し、新たな展開へとつなげている。

<汚染地の拠点病院機能充実>

甲状腺ガン検診では、将来的に現地のみで医療支援活動が展開できるよう、プロジェクトを通して現地医療支援体制の確立を目指し、人材育成及び医療設備の充実に取り組んでいる。

プロジェクトではベラルーシ赤十字の全面的協力の下、首都ミンスクの医学再教育センター、第1番病院、第10番病院、末端病院のストーリン地区中央病院（2001年まで）、ブレスト州国際赤十字移動検診チーム、ブレスト州立内分泌診療所、ブレスト州立病院、および日本の甲状腺ガン専門医との密な連携により、甲状腺ガンの早期発見・早期治療を行えるシステムづくりを目指している。

<これまでの検診患者数>

検診では、まず現地の医療機関（ブレスト州国際赤十字移動検診チーム）による一次検診で悪性の疑いが見られた患者をピックアップし、日本の医療専門家と合同での二次検診（問診・触診・超音波検査・吸引穿刺による細胞診断）を行うことで、非常に高い確率でガンを発見することができ、患者の精神負担軽減、予後の適切なフォローアップにつなげることができている。

ストーリン地区（1997～2001年、計9回）

：検診人数 689名中 22名に悪性または悪性疑い
（発見率 3.2%）

ブレスト市（2002～2008年、計8回）

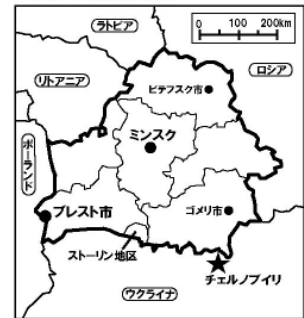
：検診人数 430名中 45名に悪性または悪性疑い
（発見率 10.5%）

<被災地での専門家育成>

これまでの合同検診という実践の場で日本の専門家からの技術習得を通して、ブレスト州立内分泌診療所の医療スタッフの医療技術は、国際赤十字連盟から高い評価を受けるほど格段に向上した。特に甲状腺の細胞を採取してガンであるかどうかを診断する「吸引穿刺による細胞診」については、日本の専門家からその技術を習得した現地医師が、さらに新たな現地医師への技術移転を行うレベルに達している。

今後は採取した細胞の診断等を行う病理スタッフの人材確保及び技術向上が課題である。

ベラルーシ共和国地図



エコー検査



診断を行う渡會細胞検査士



スライドグラス、試薬などを
ブレスト州立内分泌診療所へ贈呈。
（武藤化学より無償提供）

<日本医科大学の取組>

日本医科大学付属病院病理部 渡會泰彦

(1) 検診について

2003年～2009年までの7年間ベラルーシ共和国ブレスト州の年1回の甲状腺がん検診に参加し計309名の住民に対して超音波と細胞診による精密検査を行った。

その結果36名にがんが見つかり、その割合は12%と高率であった。(表1)

がんが見つかった患者さんはその後首都ミンスクのがん専門病院にて手術を含めた治療を受けている。

この7年間の検診で現地医師は多くのことを我々から学びとり、急速な検査技術の進歩が成し遂げられた。

特記すべきは、現地医師の超音波画像の解釈能力と細胞診穿刺技術の向上で、これらは日本の医師の技術レベルをはるかに超えております。

2003年-2004年の検診では単なる見学者であった彼らが、今では日本の医師・学生に教えるまでに成長しました。

今後は検診の最終段階である細胞診断ができる医師を増やすことにあります。

1997年のストーリン地区の検診から参加している現ブレスト内分泌診療所所長であるアルツール医師夫妻はすでに日本の細胞検査士・医師レベルの細胞診断能力を身につけており、年間100名の甲状腺がんを発見しがん専門病院へと紹介しておりますが、首都ミンスクのがん専門病院でも1名しか細胞診専門の医師はおらず、国全体としてはとても足りない状況にあります。

表1	医師	細胞検査士	医学生	検診人数	甲状腺がん	内視鏡手術
2003年	江本高津	渡會	高橋	85名	8名(9%)	
2004年	清水	渡會	賀来	24名	3名(13%)	
2005年	清水	村瀬	高橋中村	31名	2名(6%)	
2006年	清水高橋	渡會		50名	7名(14%)	
2007年		渡會	鈴木瀧音	38名	6名(16%)	1名 (日医大)
2008年	清水篠塚	村瀬	大内	52名	7名(13%)	
2009年	清水	渡會	田中	29名	3名(10%)	1名 (ブレスト)
計				309名	36名(12%)	2名

2003年～2004年の検診風景…現地医師は見学者であった



2009年の検診風景 (現地医師による吸引細胞診＝ほぼ100%的中)



(2) 次のステップへ (傷跡の少ない手術法の伝達)

ベラルーシでは頸に大きな傷跡を残す古い方法により手術が行われており、特に女性には美容的にも問題があります。(写真)

そこで、2006年の検診で発見された20歳女性の胎内被爆の影響と考えられる甲状腺がん患者を2007年に日本に招き清水教授開発の甲状腺内視鏡手術を行った。*解説

現在経過良好で傷痕もまったくわからない状態です。

さらに、今年(2009年)は現地の病院にて31歳女性の良性甲状腺腫の手術が現地医師の見守る中に行われ、患者の身体的負担が少なく傷跡が残らない手術法に対して大きな反響があり、現地での内視鏡手術普及の第一歩となった。

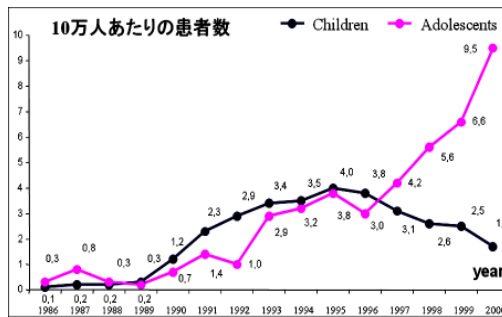
*解説：甲状腺内視鏡手術

Video-assisted Neck Surgery(VANS)法手術

1998年に清水教授が開発し

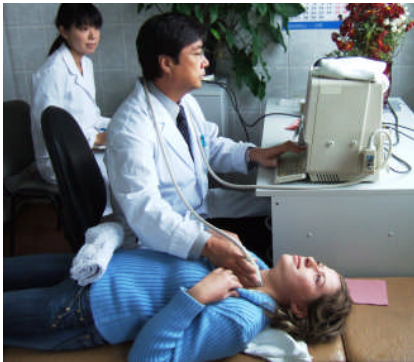
た内視鏡手術方法本術式は、甲状腺疾患は女性に多く、常に露出される前頸部に手術創が入る甲状腺・副甲状腺手術において美容的のみならず確実性のある方法。

10万人あたりの甲状腺がん患者数(ピンクが小児で黒が青年期)



現地手術の傷跡

2006年秋ブレスト検診で甲状腺がんが見つかる



2007年2月日本医科大学にて内視鏡手術を受ける



2009年秋ブレストにて術後検診 傷跡はほとんどなく、再発もない



2009年 ベラルーシにて現地医師と共に内視鏡手術を行い技術の伝達を行う



(3) 今後の支援について

被爆 20 年を過ぎ、今まで支援していた多くの国や団体が活動を中止しております。

しかし、放射能の影響は今もなお消えてはいません、その証拠として 1995 年からは小児甲状腺がんに代わりこれから国を支えていくべき青年期の甲状腺がんが急増しており、ベラルーシ社会に暗い影を落としています。

これは当時予想もできなかった新たな放射能の脅威ですが、その脅威を少しでも私たちの医療支援により回避することができるように活動を行う必要があると考えます。

また、国際支援にはいろいろな形がありますが、食糧が不足している国に食糧を差し出してもその効果は一時的ですが、農業指導などにより永続する食糧問題の解決への成果を上げている事例があることは報道などで知ることができます。

NPO 法人チェルノブイリ医療支援ネットワークは当初から「現地医師による検診・治療」のための人づくりを目標としてきました。

その支援の種を蒔き続けた結果、人口約 150 万人のブレスト州における検診スタイルの完成という実を結んだと言えるでしょう。

このスタイルが人口 1 千万人のベラルーシ国内に広がることで花が咲き次のベラルーシ生まれの種が撒かれ受け継がれるまで私たちの支援が必要であると思います。

2008 年 日本で手術したアレーシア 1 家との交流と
細胞診処理 村瀬細胞検査士

ベラルーシ赤十字訪問



広大な大地

ブレスト要塞の教会にて



ベラルーシ共和国について

<地理的な条件>

ベラルーシ共和国（以降ベラルーシ）は、ヨーロッパの中央部に位置し、バルト海と黒海との分水嶺上にあります。国境は西部ではポーランド、北西部ではリトアニア、北部ではラトビアとロシア、北東部と東部ではロシア、そして南部ではウクライナと接しています。国境線の総長は 2969km です。

面積は 207600 km²で、東西に最大 650km、南北に最大 560km にわたって広がっています。首都はミンスクです。

起伏はほぼ平面で丘陵が多く、海水面からの平均海拔は 345m です（ミンスク地方、ジェルジンスキー地区のジェルジンスカヤ山脈）。

気候は、冬は温和で湿度があり、夏は暖かく、秋は雨が多い適度な大陸性です。1月の平均気温は - 4°C ~ - 8°C、7月の平均気温は 17°C ~ 19°C です。年間降水量は、低地では 550 ~ 650mm、平地や丘陵では 650 ~ 750mm です。植物の平均生育期間は、184 ~ 208 日です。ベラルーシの気候条件は、主要な穀物、野菜、果樹の栽培や、東ヨーロッパの中央地帯での灌木の植生、特に芋、麻繊維、一年生草、飼料根菜穀物の栽培に適しています。

<鉱山資源>

ベラルーシでは、30 種類に及ぶ鉱山資源が見つかっています（鉱山資源の埋蔵量及び採掘地は 4000 を超えています）。中でもカリウム塩は最も重要な鉱山資源であり、商業用資源の産出国として、ヨーロッパ諸国において重要な立場を務めています。

<植物>

ベラルーシの国土の 70% は、自然の植物の生息地となっています。約 115,000 種類の植物において、21,000 種類の高等植物（spermaphyte）や 9000 種類以上の低等植物（雑草、コケ、地衣）があります。

<動物>

ベラルーシには、457 種類の脊椎動物（73 種類の哺乳類、305 種類の鳥類、60 種類の魚類を含む）と、20,000 種類を超える無脊椎動物が生息しています。

<森林資源>

国土の 39.8% は、森林に覆われています。材木資源としての面積は 136 m² で、これはヨーロッパの平均値のおよそ 2 倍です。

<水資源>

ベラルーシには約 21,000 の川や入り江があり、その合計長さは 90,600 km です。また、11,000 個の湖があり、そのうちの 470 個については、面積がそれぞれ 0.5 k m² を超える大きさです。国土の 2% が水面に覆われています。

<人口>

ベラルーシの人口は、約 1000 万人です。

<民族構成>

総人口の約 80% がベラルーシ人ですが、他にもロシア人、ポーランド人、ウクライナ人、ユダヤ人、リトアニア人…など多くの民族が共存しています。

「BELARUS FACTS 2005」より抜粋



福祉工房「のぞみ21」で作られたマトリョーシカ



亜麻に赤い糸で刺しゅうをあしらった民族衣装



わら細工の人形



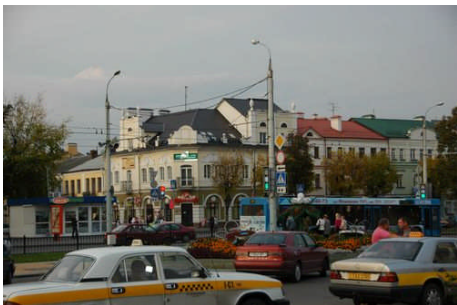
素焼きの人形



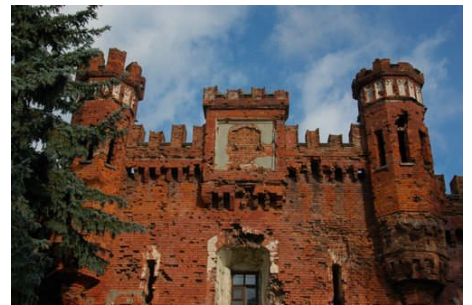
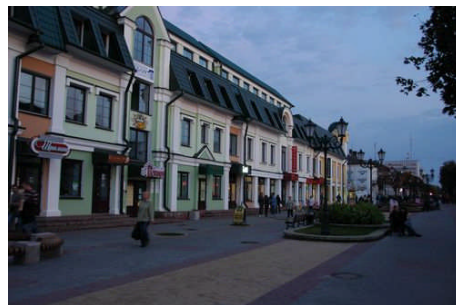
伝統的な刺しゅう模様



ベラルーシ料理の数々
ベラルーシではジャガイモを使った料理のレシピが500以上ある！



ベラルーシの街並み
ブレスト市にて



ブレストの要塞
ポーランドとの国境近くに建つ要塞。
過去に何度も他国の侵略を受けてきた。
煉瓦には銃撃の跡が数多く残っている。